The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	〈翻訳〉マリア・モンテッソーリ『女性問題とロンドン会議』
Author(s)	早田, 由美子; Montessori, Maria
Citation	AULA NUOVA イタリアの言語と文化. 2004, 4, p. 161-171
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93557
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

女性問題とロンドン会議

マリア・モンテッソーリ[1]
（早田　由美子訳）

近年、教育思想家実践家であるマリア・モンテッソーリ（1870-1952）の女性解放主義者としての側面が注目されつつある。彼女は19世紀末から20世紀初頭にかけて、フェミニズムに関する演説を行うとともに論文も少なからず公にしている。本稿で翻訳して紹介するのは、そのうちの１つの論文である。1899年６月から７月にかけてロンドンで開催されたロンドン国際女性会議でモンテッソーリが行った演説の内容を、同年10月に「女性問題とロンドン会議」と題して彼女自身がまとめたものである。フェミニズムの歴史の中では、ブルジョワ女性解放思想と位置づけられる思想であるが、様々な視点や内容を含み、後の教育思想の土台となる思想も現れている。また、当時のイタリアにおけるフェミニズムの進展や女性の状況を示す資料としても重要であると考えられる。（早田）

すでにいくつかの新聞では、先日ロンドンで開催された女性会議について言及している。その規模、扱われたテーマの重大さと多様性ゆえに、男性の団体が世界的賞賛の下で開催する優れた会議と肩を並べるものである。ヨーロッパ、アメリカ、オーストリア、アジアのあらゆる国々から約3000名の女性が、流行のエレガントなファッションやインド、スーダン、日本、中国それぞれの様式の服装に身を包み、お国柄を反映したや雰囲気とともに、各国における文化的精神的状況や女性団体に関する話題を持ち寄った。大部分の女性が優しく美しかった。知性と熱意に輝く目をもっていた。彼女たちが話すことは、残してきた家、家族、夫、子どものことであり、祖国における自らの有益な活動の足跡のことであった。

彼女たちは新しい女性であった。フェミニズムの原理を全く知らないために男性たちが第3の性という名称で分類するようなあまり感じのよくないタイプとはまるで似ていない。女性はその性別ゆえに泣きながら、男性に対する無情で悪意に満ちた批判者となったり、家族や国の敵になったり、強制された自制という毒を不毛な心によってぶちまける悪女になったりする。「不健全な原理によって自然の法則にそむく女性」とセルジは言う。彼はフェミニズムについて議論してくれない。なぜなら彼はそれを愚かな考えとみなし、こっけいな会議にふさわしいテーマと思っているからである。

彼女たちは新しい女性であった。その言葉の真の意味、つまり、賞賛に値するという意味において。社会的進歩のために働く女性であり、世界の幸福のために貢献する女性である。意識的で強力な半数の人類は、人類のもう半数に、共通の幸福を全うするための共同作業に向けて活動を提供するために立ちあがる。

では、女性の社会的活動とは何か？男性が行うことを女性もできるであろう。しかし、特に、母性の美点に注目しよう。それは、弱き者を愛し守ること、あらゆる悲惨を解決すること、正義と世界の平和の勝利を意味する。その中で市民の偉大な原理を実行する。すなわち、連帯、組織である。ほんの11年前に、ワシントンで彼女たちの叫びが起こった。「全世界の女性よ団結せよ」。集結することを求めて１つの御旗がはためいた。それはほとんど、時代によって修正されたキリストの原理である。「あなた方自身がしてもらいたいことを他の人に行いなさい」。行いなさい。つまり、働きなさい。しかし、他人のために、すなわち、社会のために情熱をもって働きなさい。自分の幸福を求める際に発揮する情熱で、他者の幸福のために働きなさい。従って「あなた方がしてもらいたいことを行いなさい」。女性が受身である時代が終わったのは真実である。かつて、女性は悪いことをしないということで十分であった。また、女性の美徳とはすべて、～しないということが重要であった。１つは、生活に対して無知であること。それは、公的な事柄に携わ

らないこと。働かないこと。子どもに対する責任を負わないこと。財産管理をしないこと、である。もう１つは、受動的であること。それは、夫のために自分の意志を押し殺すこと。夫以外のためには生きないこと。ただし、夫を理解しているわけではない。悪いことをしないことだけを考えること、である。そして、その悪いこととは夫の好みに反することなのである。

このような否定主義によって女性は動揺し、活動を、そして「働け！良いことを行え！」という行動をやめる。女性に何ができるか、どのような大仕事ができるか、あらゆる社会組織をどううまく体験できるか、と将来を見据えて言うであろう。

11年前から今日まで、活発で継続的な宣伝を通して女性の異例の組織化が求められてきた。次のように有益な活動という旗の下で。

「われわれ、あらゆる国の働く女性は確信している。人類にとって最善の幸福は、思想と良心と目的の偉大な統合によって前進するであろう。また、女性の組織的な運動は家族と国家の最上の利益をより良く守っていくであろう。そして、社会と慣習、法律における黄金律の適用を進めるであろう、と」。

従って、働く女性は次のように信じている。普遍的利益の下での団結は家族をより良く守るであろう、と。実際、女性が良いことを行うときは、男性を理解しうる教養ある知性や社会的政治的情熱で男性とともに歩むのにふさわしい心を示すであろう。あるいは、仕事を通して家族の豊かさを維持するたすけとなるであろう。十分啓蒙された精神で子どもの心身の発達を世話できるとき、同時にもっぱら夫の愛の対象であり、仕事の同僚であり、子どもを心配する母親となっている。この女性は「家族の最善の利益」をより良く守ることに貢献するであろう。

社会を検証すると、以下のことが分かる。軽薄で愚かな堕落した女性が心の内にもっていることは、破壊しながら不健全な無政府主義に向うということを。家族に対して彼女は話をせず、その行為によって家族をすでに破壊している。もし、社会の発展の中で、無気力と否定的態度という状況にある女性が変わらないままであるなら、彼女だけが家庭を真に破壊しうるであろう。

一方、発展の一般的動きに従う女性の労働者は自らに健康と力をもたらす。そして、家族の発展に貢献するであろう。決してその破壊には貢献しない。その姿は女性と母親の尊厳をよりいっそう高めることになる。そして、家庭の真の婦人、女王となる。

従って、ロンドン会議で輝くフェミニズムの一般原理は、どのような社会的宗教的法にも反さなかった。普遍的かつ広く恩恵の及ぶ方法で実証哲学から行動へとこの法を移行させた。新しく豊かな生活への荘厳な目覚めを意味していた。その中で、われわれの子孫は穏やかで大いなる幸せを経験するであろう。

会議で導入された女性運動の目的は、すでに全世界に存在している女性の行動を組織化することである。それらの行動の一部は、直接的には、女工や女性教師、女性の専門職を生み出すような経済的要因によって、すでにもたらされている。また、ほんの一部分は、文明の進歩という要因によってももたらされている。文明の進歩は文化的方法を増やし、新しい発見によって驚くべきものにする。興味と情熱を女性の魂にももたらし、女性を行動へと駆り立てる。しかし、女性解放主義者のあらゆる宣伝にもかかわらず、女性が必然的に肉体労働へと参入しているという新しい事実は、経済的社会的収支の上でより一層重要な貢献をしながらも、格差を生み出している。

法律と慣習はこの変化にまだ対応できていない。そのため、多くの犠牲、抑圧、無理解が生じている。女性労働者には正当な報酬が支払われていない。女性は家族の食べるパンの半分かしばしば全部をもって帰るのに、夫の暴力の物言わぬ犠牲になっている。夫によって家計が維持されていたときと同じように。女性教師は子どもの教育の約3分の2を担っているが、男性教師よりも低い地位に置かれている。昇進は女性に開かれておらず、教師階層の地位改善へ向けた改革は、女性教師を念頭に入れていないことが多い。女性は秘密を守ることができないという偏見の下、数ヶ月前わが国でおきたように、幾つかの国ではまだ、電話交換手はパンのない家族か、家族のないパンかを

選ぶことを強いられる。女性医師や女性弁護士は、生存競争を生き抜く上での障害が、社会の偏見や法律の中にあるのを感じている。あらゆる大きな運動の始めに際して、必然的に起きるこれらの不均衡は、様々な国における大小の文化的進歩の度合いによって、部分的に均衡を保ちながら生じている。しかし、その間、それは他の一連の犠牲をもたらしたし、現在ももたらしている。すなわち男性の獲物になるということである。男性は、はじめて家庭という環境から外に出る女性を容易に獲物にする。一方、生活能力のない困窮した女性は、どんなに高潔な魂であっても、誘惑のわなに容易くかかる弱さをもってしまうのである。

従って、ここに組織の必要性がある。アメリカやイギリスの有能な女性たちによって、11年前、幸運にもこう直観された。彼女たちはワシントン会議に集まり、全女性労働者間の巨大な世界組織創設を決議した。あらゆる国における女性の状況の研究を容易にするために。また、相互支援のためや文明の変化に必然的にともなう前進の事例を援助するために。「あらゆる国あらゆる状況の女性よ、団結せよ！」

女性は女性によって守られ助けられるように１つの友愛的つながりで結合する。それぞれの国において、まず社会の中で次にあなた方の階層の中で組織される。労働者と労働者、教師と教師、自由業と自由業、貴婦人と貴婦人、われわれの組織は自律的であり、独立している。あなた方のあらゆる要求や被っている不正を表現できる。

もしあなた方がある政党をもち、十分な自由の中で育まれたある政治的意見をもっていても、あなた方の限られた環境から外に出ないような、孤立した自分の力として、あなた方の小さな胸の中でそれをとどめておきなさい。そして様々な社会的カーストのある社会の中で、あなた方の国においてあなた方を組織し、全国委員会を作りなさい。その中に、あなた方の研究、嘆き、要求をもちこみなさい。しかし、あなた方を活気づけるのは決して政治的意見ではない。あなた方は社会主義者であるか、君主制主義者、自由な思想家か、教会支持者であろう。しかし、政治的意見は重要ではない。これらは多

くの人類を引きつけるわけではない党という小さな形式なのである。人類は荘厳で偉大な１つの党をもつ。それは『世界の幸福と平和、絶対的進歩』である。人類全体が真の権利と自己の義務を自覚し、世界の幸福のために団結して働くときにはじめてそれは到達されるであろう。

国民諸委員会は、自国における会議であらゆる場合に１つにまとまるべきである。ここで黄金律が作用する。とりわけ、個々のカーストの要求に相互的援助が作用する。一方から他方に手を差し伸べるであろう。労働者から貴婦人に。「自分自身にやってもらいたいことを互いに」するであろう。偉大な貴婦人の仕事は最も活動的で恩恵的なものになるであろう。もし彼女が働くことを望むなら、どのように無限の分野の行為がわれわれの活動に開かれているか！あまり力のない仲間の組織化を援助できるだけではなく、なんと言っても、その手中には女性問題の政治的勝利がある。

大部分は、政治的経済的権利獲得の作業である。その権利は様々な政治的団体が正義と人間性の名の下に求めるものである。また、組織されず、社会の中で受け入れられず、しかし、同情や援助を必要とする女性たちについて考える仕事である。すなわち、売春婦や刑務所の女性が子どもを産み育てることや病気の予防という聖なる仕事に着手するように考える仕事である。

そこで、あらゆる社会は互いにコミュニケーションを取り、助け合い、変化に対してアドヴァイスし合うべきである。様々な社会階級を対比させ、全世界の様々な知識人を集め、各国でなされた仕事と獲得した勝利を公にするために、国際会議において５年ごとに集結するであろう。

＊＊＊

1899年７月に閉会したロンドン会議はこのような会議であった。15番目の女性の国際会議であった。この数年間で、アングロサクソンの人々によってなされた仕事の歴史は、健全な女性の活動を提供する真に素晴らしいものである。実際、国際委員会の完全な組織化は、何年もの造作をしばしば必要とする忍耐と才能の偉業である。カナダの偉業を見てみよう。それは、副王夫人レディ・アバディーン（ロンドン会議の長）による並外れた機知によって

統合された。知られているように、カナダでは2つの言語が話されている。フランス語と英語である。国民は分けられ、個々の利益擁護のために各地域でまとまった小さな地域にさらに分けられ、ほとんどあらゆる知的活動を吸い上げられた。しかし、アバディーン伯爵夫人は同盟という驚くべき仕事を成し遂げることができた。崇高なとも言うべき彼女の力によって、カナダの産業と政治に関する新しい法律を勝ち取った。

ドイツの委員会も、1896年に忍耐強い壮大な仕事によって組織化された。スウェーデン、ノルウエー、フィンランド、アメリカ、イギリス、デンマーク、オランダ、ニュージーランド、南ウェールズの女性たちが国民委員会で選出された。イタリア、フランス、ベルギー、スイスの委員会は組織化の途上である。これらのあらゆる国は公的代表をローマに送った。そして、他の国々も、アジアの中央の国にいたるまで、＜幸福な詩＞を聴くために女性を送りこんだ。

アバディーン会長は、イギリスの最も高貴な貴族の中の貴婦人である。他の高貴な女性を超える美しく立派な女性である。ここに参集している大勢の人々に話す際、パリのタバコ売りの女性にも笑顔で頭を下げる。美しい曲線美を曲げる時、魅力的な優しさに満ちている。この偉大な貴婦人は、「節酒協会」の最も粘り強い支持者の１人である。その会はイギリスにおいてアルコール中毒と成功裏に戦い、近年、生まれた子どもの中で障害児の割合を非常に下げた。彼女は非常に敬虔で、会議においてその信念の公的な実践を実際に行った。

アバディーンのそばにはスザーランドの若い公爵夫人がほとんどいつも優しい影のようにつきそっていた。夢中になるほど非常に美しい貴婦人である。魅力的な宮殿で参加者を歓迎する最初の夜会を開いたある男性が言ったように。

彼女は素晴らしかった。光る星が散りばめられて輪形になったブロンドの髪をもつスザーランドのその美しい公爵夫人は黄金の階段の最上段にいた。燦然と輝く宝石の髪飾りをつけた、凛とした伯爵夫人アバディーンが各国代

表の女性たちを紹介すると、その貴婦人は5ヶ国語を使いわけながら、若若しい微笑みと優雅な言葉で歓迎した。私は神によって非常に高潔に、このように高貴かつ豊かに装飾されたこの若い人物について思う。スザーランドの公爵夫人について思う。すでに彼女はイギリスのあらゆる障害児を守る女性になっている。

華麗な歓迎は、フェミニズムがいかに「大地の偉大さ」によって恩恵をうけているかを示していたし、また、別の言葉はこの新しい社会の動きを活気づけ、いやむしろ、神聖なものとして認めた。

アバディーン夫人は慈悲深い自由な貴婦人である。女性解放主義者の団体における女性の意図の神聖さを国家と教会に納得させた。「あなた方自身がしてもらいたいことを他人に行いなさい」という黄金律は、アングリカン教会によって好まれ、公的に神聖化され祝福された。ロンドン司教はその広大な私庭でのガーデン・パーティに会議の女性を招待した。彼は白いひげを蓄え威風堂々としており、大きな金の十字架のついた司教ネックレスを胸に下げ、妻とともに家の名誉を示した。

彼は各自に優しい言葉を掛けた。医師という私の職業の社会的有用性を褒めてくれたように。確かに全ての人々に各自の仕事を勇気づける父性的言葉を掛けていた。

厳粛で盛大なパーティは日曜日の午後、ロンドン最大のセント・ポール教会で行われた。会議に出席した女性たちの名誉の名で、宗教的な役割が祝福された。マントに身を包んだ司祭の行列、大勢の子どもの声、彼らは教会の天蓋に反響していっそう柔和になった声で賛美歌を歌った。パーティではお香の香りが芳しく、何千もの光が厳粛で感動的な配色を美しいアングリカン教会に与えていた。フェミニズムは神の儀式で祝福されているように見えた。ワシントンの女性の旗はあらゆる人を惹きつけることになるであろうと思われる。そして、人はそれに魅せられる。政党、異なる国民性、内的人間性に巨大な力で影響を与える宗教的信仰にかかわらず、女性は立ちあがり、奮起し、正義と世界平和の実現に進む。

英国および大英帝国の80歳の君主ヴィクトリア女王も、女性解放主義者をウインザー城に招待し、彼女たちに挨拶し、その社会的な仕事に対して愛情深い言葉で激励した。この祝福された女王は、人民の強力な君主であり、愛情、長年の愛情で彼女が選んだ夫の愛すべき君主であった。妻そして未亡人の長い人生、自発的なそして多産な妻であり、子どもたちの真の自由な女性教育者であった。われわれ全世界の女性労働者間で、互いを結びつける理想のシンボルとなっていた。

＊＊＊

イタリアの女性よ。このような世界的組織化の勝利の歩みの中で、われわれはどのような役割を果たそうとするのか。われわれのところでは何千人もの女性が働いている。工業、商業、民衆教育は多くの女性に支えられている。もし、明日、女性労働者が突然仕事を中断したら、国中は壊滅的な打撃を受けるであろう。

公共の福祉に寄与するこれらの女性労働者を守り新しい権利を与えるために作られる法律はほとんどなく、不十分であることは確かである。過酷な苦しみと悲惨の中で終結するという欠陥は放置されている。

女性の労働と尊厳を守るという問題は深い研究に値する。今日立ち止まることなしに社会的悩みの種のそばを通りすごしてしまうのは文明に逆らうことである。経験はわれわれに次のように物語る。より進んだより豊かな国では、肉体労働者の女性および知的労働者の女性の幸福はより大きく、労働の成果もより豊かでより良いものである、と。女性に対してこれらの考慮がなされるとき、その国におけるより偉大な道徳性と強く将来有望な子どもの出産という利点が加わる。

われわれ女性は何をすることができるであろう。祖国を良くするのに有効な贈り物をするために。

人民の勝利の例は、われわれが進むべき正当な道を示している。そこに集おう、組織しよう。世界連合の中で団結しよう。目的に向かってともに進もう。人間性という神聖な権利に関わる諸問題を解決するための力や指導や鼓

舞を引き出すために。

組織するためにわれわれは正義の道を進む。「働こう、そして、われわれがしてもらいたい良いことを他人のために行おう。自分自身を革新するだけではなく、理想的には、他人のためにも」。

われわれイタリア女性もそのアピールに応えよう。そのアピールは、ワシントンから、全世界において、最も遠いアジアの国にまで、鳴り響く訴えである。アジアでは、われわれの文化とは全く異なる文化の中にいる女性の心をともに呼び覚ます。優しく強く加担しよう。愛と世界の平和という聖なる理念をもって。黄金律の旗の下、われわれも団結しよう。未来の中で輝く文明の進歩を見据えて。

イタリア国民委員会は、ロンドン会議での満場の祝福によって推進・歓迎された。全世界がそれを待っており、女性運動の世界的リストに厳粛に登録された。

秩序のために組織に従う必要がある複雑な状況があるため（国際社会の中で維持するのは確かに容易ではない）、アングロサクソンとイタリアの女性間の合意は、主な広報活動によって会議以前にすでになされていた。イタリアにおける様々な女性団体間の連合は、国際委員会の合意と後援の下ですでに始まっていた。実際、イタリア連合の暫定委員会の設立者で委員長であるタヴェルナ伯爵夫人は、ロンドンでは国際会議の副委員長として知られていた（国際委員会の長は国際会議で副委員長になる）。

それはタヴェルナ伯爵夫人の暫定委員会とヴェローナ王女、ヴィルジニア・ナサン、ジャチンタ・マルチーニ、そしてロンドン会議に私を招待したパゾリーニ伯爵夫人によって主催された会議であった。

優美な貴婦人というニックネームをもつ婦人たちは、新たな使命の下で会議を召集し、ある著名な男性の支援を引き出した。グイド・バチェッリ大臣である。彼の道徳的力と現代的視野の広さは近年イタリアの教育に大きな進歩をもたらした。

どのように素晴らしいのであろうか？アバディーンは開会演説の中で言っ

た。「男性は、１人で生きていく運命ではない。女性もしかり。どちらかの性に向けられ、その生活を分離する協会は、自然の法則にも神の意志にも合致していない」。

「男性を除くわれわれの間では、合意ができていることを感じている」。それは単に男性がまだ次のように考えられないからである。「その時の必要性に応じた一時的手段として捉えるべきであり、社会生活の中で永遠の要素とするべきではない」と。

従って、われわれは、単に男性がまだ考えていないから動く。彼らは、われわれの新しい偉大な使命に気づいていない。しかし、もし、男性が心で時代を見通すなら、また、科学的才能と社会的才能を結合するなら、女性の利益に対する純粋に自然な支えとなるであろう。

学者や政治家の男性たちは女性運動に参加するであろう。（グイド・バチェッリに続く）偉大な男性たちは、アングリカン教会の認可とヴィクトリア女王に心を奪われ仰天するであろう。多くの人々が平和の旗の下にいるのに気づく。その旗はかつて人々がシーザーの手の中で、はためくのを見たのである。

実際、フランス政府は、パリで1900年に開催される次の会議において、公然と女性の利益の支持者になるであろう。

しかし、グイド・バチェッリは勝利に導く運動を見通す。彼は、高度な勝利を得る以前に、正義と進歩の側に身を置いている。偉大なそれらの功績の中では、これは最後ではないであろう。将来、後裔は判断し、男女はともに、愛と仕事の仲間となるであろう。もはや性別に由来する権利ではなく、人間の権利を享受しながら。

註

(1) Maria Montessori,《La questione femminile e il Congresso di Londra》,in *Vita dell'Infanzia,*xxxv, n. 5, 1986. Ristampato《L'Italia femminile》,I ottobre 1899,38.